

幌延町地域振興(観光)計画アクションプラン

平成30年度 実施報告

平成31年3月28日

1. 平成30年度の事業実施概要について

大項目	小項目	実施概要
(1) アクションプランの推進	①着地型コンテンツの検討	平成30年11月6日（火）～11月7日（水）に旅行会社及び稚内市・豊富町の観光協会関係者を招聘し、商品化を目指す着地型コンテンツについて実際に体験頂き、今後の商品化に向けたアドバイスを受けた。
	②特産品開発の検討	平成30年10月15日（月）～10月16日（火）にブラッスリーコロン塚田シェフ及び北海道大学玉井先生を招いて、北大天塩研究林などの「森林」が生み出す新たな食材の発掘を行った。
		平成30年12月1日（土）にトナカイ肉、鴨肉や生乳の他、新たに発掘した食材を活用し、ブラッスリーコロンウィズルクルーゼにて、幌延町食材を使用した特別なディナーイベントを実施した。
(2) 拠点計画の検討	①勉強会の開催	平成31年2月26日（火）に道の駅絵本の里・けんぶち／道の駅もち米の里☆なよろ視察ツアーを実施し、道の駅の運営について学んだ。
(3) 検討委員会の運営・開催支援	①検討委員会【3回】	全3回の検討委員会を開催した。 第1回 平成30年10月11日（木） 第2回 平成31年1月23日（水） 第3回 平成31年3月28日（木）
	②庁内協議の実施	全3回の庁内協議を行った。 第1回 平成30年6月4日（月） 第2回 平成30年7月11日（水） 第3回 平成30年11月21日（水）

2. 項目別の実施内容要について

①着地型コンテンツの検討

旅行会社及び稚内市・豊富町の観光協会関係者を招聘し、商品化を目指す着地型コンテンツについて実際に体験頂き、今後の商品化に向けたアドバイスを受けた。

【日 程】

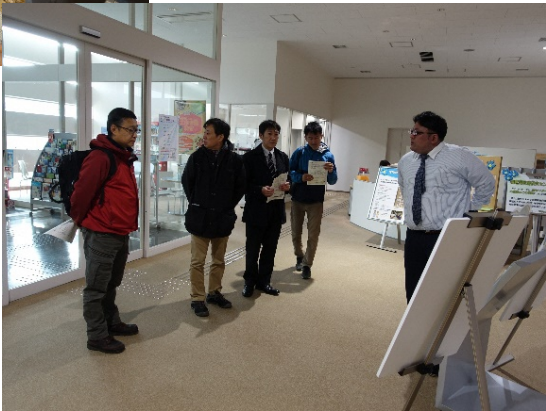
平成30年11月6日（火）～11月7日（水）

【行 程】

日程	内容	
1日目	12:30 ～13:30	【ランチミーティング】 レストランポロ ・幌延町観光の概要説明 及び 視察趣旨及び今回の行程の説明等
	13:30 ～15:00	【視察①】 トナカイ観光牧場でのクラフト体験等 ・観光牧場の見学（トナカイへの餌やり等） ・トナカイの角細工体験 ・カイト体験
	15:00 ～16:30	【視察②】 幌延町観光地見学 ・ゆめ地創館、町営牧場南沢団地
	宿泊	ビジネスホテル北斗荘
2日目	9:00 ～10:30	【視察③】 幌延町観光地見学 ・サロベツ原野／散策・野鳥観察、動植物の紹介等 ・各地見学／名山台展望公園、下沼駅・湧水、オトンレイ風力発電所
	11:30 ～12:30	【意見交換会】 菜味季 ・体験頂いた観光コンテンツについての感想や磨き上げに向けた助言等
	13:00 ～15:00	【視察④】 北大天塩研究林の見学 ・北大天塩研究林の自然体験

【参加者】

所属	氏名
株式会社近畿日本ツーリスト北海道 北海道DM支店北海道地域誘客センター	大野 忠治
株式会社JTB北海道事業部	鶴舎 亮
一般社団法人 稚内観光協会	高畑 裕次
豊富町観光協会	栗山 尚



2. 項目別の実施内容要について

① 着地型コンテンツの検討



トナカイ観光牧場にて柵の中で餌やりを体験



トナカイの角を使ったバッジづくりを体験



綺麗にヤスリをかけたトナカイ角にスタンプを押して完成



スノーカイトについて紹介し、トレーニング用カイトの操作を体験



ゆめ地創館の見学とともに、隣接の実規模試験施設で簡単な実験を体験



町営牧場南沢団地からのビューポイントを視察

2. 項目別の実施内容要について

① 着地型コンテンツの検討



幌延ビジターセンター向かい展望台（監視塔）から周辺景観を見学



サロベツ原野の木道を歩き、サロベツ原野の特徴について説明



オトンレイ風力発電所を見学



秘境駅「下沼駅」と下沼湧水について見学



北大天塩研究林の事務所で研究林の概要について説明



北大天塩研究林の見学

2. 項目別の実施内容要について

②新たな食材の発掘

ブラスリーコロン塚田シェフ及び北海道大学玉井先生を招いて、北大研究林などの「森林」が生み出す新たな食材の発掘を行った。

【日 程】

平成30年10月15日（月）～10月16日（火）

【行 程】

日程	内容	
1日目	13:30 ～16:30	北大天塩研究林等にてキノコ収穫
	宿泊	サロベツ会館
2日目	7:00 ～9:00	町営牧場南沢団地にてヤマメ釣り
	9:00 ～11:30	トナカイ観光牧場にてミニトマト・ルッコラの収穫 北星園にてピーマンの収穫
	11:30 ～12:00	トナカイ観光牧場にて食材の下処理
	12:00 ～13:00	意見交換会の開催

【参加者】

所属	氏名
ブラスリー コロン ウィズ ルクルーゼ メインシェフ	塚田 宏幸
北海道大学 農学研究院 基盤研究部門 森 林科学分野 准教授	玉井 裕



2. 項目別の実施内容要について

②新たな食材の発掘



北大天塩研究林にて自生するキノコの調査を行った



北大天塩研究林のシイタケ



北大天塩研究林の山ぶどう



北大天塩研究林でハタケシメジを収穫した



三日月湖のほとりで、ユキノシタを収穫した



ユキノシタやヌメリスギタケなどのキノコが収穫できた

2. 項目別の実施内容要について

②新たな食材の発掘



南沢にてヤマメ釣りを体験した



ヤマメやイワナなどが釣れた



町営牧場南沢団地付近でもユキノシタなどのキノコが収穫できた



トナカイ観光牧場ではミニトマトを収穫した



トナカイ観光牧場ではルッコラを収穫した



安心生産農園ではピーマンを収穫した

2. 項目別の実施内容要について

③Horonobe Nightの開催

トナカイ肉、鴨肉や生乳の他、新たに発掘した食材を活用し、ブラスリー coron ウィズルクルーゼにて、幌延町食材を使用した特別なディナーイベントを実施した。

【日 程】

平成30年12月1日（土） 17:00～19:30

【参加者】

- ・一般参加者 15名
- ・フードライター 小西由稀氏
- ・関係者 6名 【合計23名】

【当日のメニュー表】

Horonobe Night
幌延町の食を楽しむディナー会
2018.12/1sat

北緯45度線上にある「幌延町」は日本で唯一のトナカイ牧場があり、森の恵みが豊かな北海道の北部の町。
brasserie coron 塚田宏幸シェフによる、幌延町の旬食材を使った特別ディナーをご用意いたしました。
珍しい食材の新たな魅力を、ご堪能ください。

Today's menu

塩漬けた天然ヤマメ
天然ナメコ 菊芋と鴨
ヒグマと辛味を強調したルッコラ
トマト
トナカイ 山ぶどう 天然キノコ 山栗
フレッシュミルクと蜂蜜 山胡桃

Drink

Alcohol
ワイン・お酒

1. クリサワブラン 2016 / 中澤ヴィンヤード
2. shimizu rosso サンスフル / 清水町ワイン研究会
3. タブコブピノ・ノワール 2015 / 近藤ヴィンヤード

No alcohol
ノンアルコール

1. 人参ジュース
2. 紅玉ジュース
3. jalala ファームのトマトジュース

【募集チラシ】

Horonobe Night
幌延町の食を楽しむディナー会
2018.12/1sat

北緯45度線上にある「幌延町」は日本で唯一のトナカイ牧場があり、森の恵みが豊かな北海道の北部の町。冬の訪れを感じる12月1日に、brasserie coron 塚田宏幸シェフによる幌延町の旬食材を使った特別ディナーをご用意いたしました。
珍しい食材の新たな魅力を、ご堪能ください。

日時 2018年12月1日(土)
16:30 受付開始
17:00 ディナー開始
19:30 終了予定

会場 ブラスリー coron ウィズル・クルーゼ
札幌市中央区南1条西2丁目丸井今井 札幌本店 大通館 3F

参加費 税別 **¥8,000** 【ドリンク3林付き】
※ご予約の際にアルコールorノンアルコールの旨をお伺い致します。

定員 20名

お申し込み・お問い合わせ 011-221-4141 (ブラスリー coron)
※予約の変更・キャンセルは3日前までにご連絡下さい。

協力：幌延町

2. 項目別の実施内容要について

③Horonobe Nightの開催



イベント前に司会者と出演者で進行について打合せ



テーブルコーディネート。トナカイ角の箸置きを全員にプレゼント



野々村町長より幌延町の紹介、乾杯の挨拶



イベント中に、足達さんや伊山さんが食材について紹介



塚田シェフと野々村町長で最後にスペシャルトーク



関係者で記念撮影

2. 項目別の実施内容要について

③Horonobe Nightの開催



塩漬けしたヤマメとヤマメのムース、
アカエゾマツのオイルの前菜



鴨出汁スープにナメコ、菊芋のいも
もち



トナカイ観光牧場で獲れたミニトマ
トのムースとチーズ



幌延で獲れた熊肉と香草パン粉のカ
ツレツ



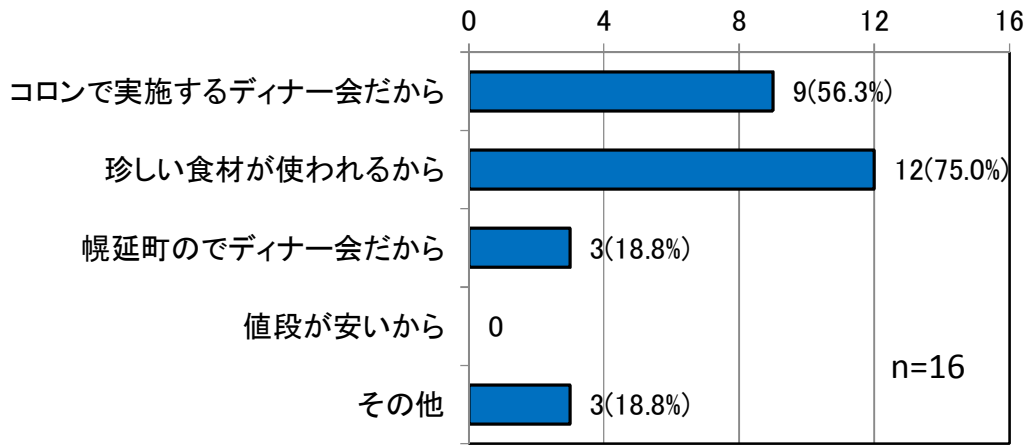
トナカイのローストに発酵山ブドウ
とキノコのソース



クルミのカラメルと幌延産ミルクの
アイスとプリン

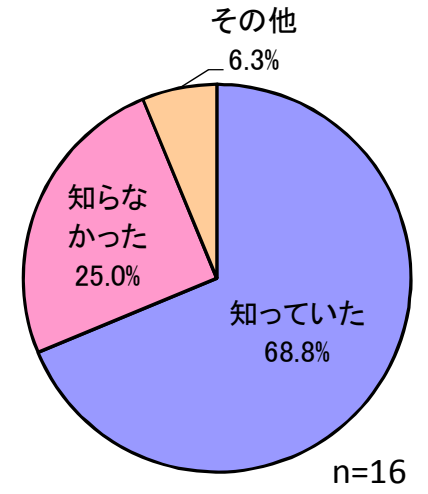
2. 項目別の実施内容要について

③Horonobe Nightの開催

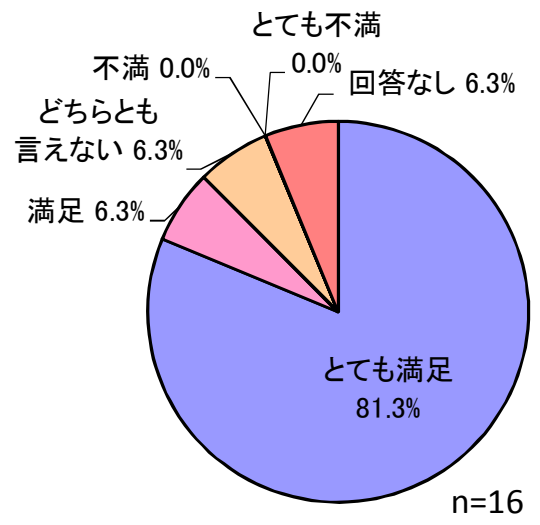


※複数回答

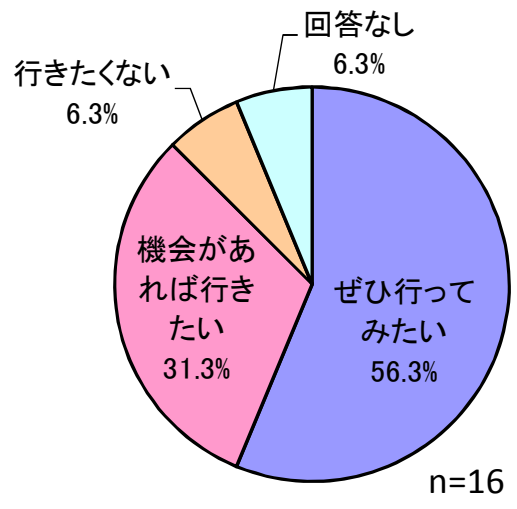
幌延ナイトへの参加理由



本ディナー会参加前の幌延町認知度



本ディナー会の満足度



幌延町への来訪意向

2. 項目別の実施内容要について

④ 検討会の開催

全3回の検討会を開催した。

第1回検討会

【日 程】
平成30年10月11日（木） 18:00～

【場 所】
幌延深地層研究センター国際交流施設
1階多目的ホール

- 【内 容】**
- 委員長・副委員長選出
 - 平成30年度の事業案や道の駅の検討状況の報告
 - 今年度事業についての意見交換等



第2回検討会

【日 程】
平成31年1月23日（水） 18:00～

【場 所】
幌延深地層研究センター国際交流施設
1階多目的ホール

- 【内 容】**
- 事業の進捗報告
 - 拠点整備に係る検討
 - 今後の侍史予定事業についての報告



第3回検討会

【日 程】
平成31年3月28日（木） 18:00～

【場 所】
幌延深地層研究センター国際交流施設
2階会議室

- 【内 容】**
- 成30年度実施事業の概要・進捗状況や総合戦略の進捗についての報告
 - 幌延町地域振興（観光）計画推進に向けた平成31年度の取組みの検討

★本日開催

全3回の庁内協議を行い、拠点整備についての検討を行った。

- 第1回 平成30年6月4日（月）
- 第2回 平成30年7月11日（水）
- 第3回 平成30年11月21日（水）

ワイン樽による『北緯45度のまち幌延町』創生事業



◆北緯45度◆
リヨン【フランス】
ミラノ【イタリア】

平成28年度に北海道経済産業局で実施した『100%北海道産ワイン・クラスター事業』を継承し、独自展開として『100%幌延町産ワイン』製造の実現に向け、平成29年度からワイン樽試験製造を開始。北海道経済産業局、北大天塩研究林の強力なサポートのもと、材確保・製材・乾燥を経て、翌平成30年度に初の『幌延町産ワイン樽』3樽（有明産業製造）が完成。2樽を北海道ワイン、1樽を田中酒造に委ね、木樽熟成ワイン及び日本酒の試験製造に着手（平成30年度完成）。

ブドウ栽培についても、平成29年度に池田町から苗（山幸・清見）を購入し、トナカイ観光牧場敷地内で、試験栽培を実施中。



北大天塩研究林との
包括連携協定締結
【幌延町産ワイン樽製造】



【ワイン樽製造委託】
有明産業 株式会社
幌延町産ワイン樽

完成!



【木樽熟成】
北海道ワイン株式会社
田中酒造株式会社



【幌延町産木樽熟成】
ワイン&日本酒

完成!

ふるさと納税返礼品
に活用予定!!



2017年

2018年

2019年

2020年

【材料調達（天塩研究林）】
幌延町産ミズナラ



【製材・乾燥】
ススム商会
田野木材有限会社



ブドウ試験栽培（池田町苗）～試験醸造用ブドウの確保



【将来像】
100%幌延町産ワイン製造

【事業展開イメージ】

ワイナリー誘致・ブドウ栽培 ⇒ 産業振興・地域経済活力向上

検討課題：資金調達・情報発信・人財確保

基本戦略	主な施策		今後のプラン (アクションプラン)			実施状況
			短期	中期	長期	
戦略1. 既存観光施設の魅力向上	トナカイ観光牧場	戦略1-1 観光客受入環境整備の推進	・体験メニュー商品化・旅行会社等へのプロモーション	・旅行会社等へのプロモーション ・受入環境整備の推進	・体験プログラムの強化・充実 ・受入環境整備の推進	
		戦略1-2 トナカイのイメージを活かした演出	・サンタクロースや北欧、漫画など活用するイメージ確立	・イメージに沿った整備やサービスの提供	・イメージを活用した観光まちづくりの推進	
	ノースガーデン	戦略1-3 美しく花を見せる花壇の整備	・ボランティア募集方法と取り組み内容の検討	・継続的なボランティア実施	・ボランティアツーリズム等による交流人口拡大	
	幌延ビジターセンター及びサロベツ原野エリア	戦略1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供	・商品化できるメニューの絞込み及び商品化に向けた具体的な検討	・旅行会社等へのプロモーション ・着地型の旅行商品の開発	・旅行者の受入れ拡充	・旅行会社等を招聘し、商品化に向けた評価を実施した。
		戦略1-5 木道等の環境整備	・ボランティアによる環境整備の実施	・旅行者や来訪者が関わる環境整備の在り方検討	・町民、来訪者双方が関わるができる環境の整備	
	オトンルイ風力発電所	戦略1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発	・具体的な体感メニューの検討	・メニューの一部試行と改善	・旅行会社や来訪者へのPRや旅行会社への売込み ・旅行者の受入れ拡充	・旅行会社等を招聘し、商品化に向けた評価を実施した。
戦略2. 雄大な自然資源の活用	戦略2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供		・教育型プログラムを提供する組織・内容の検討	・旅行会社等へのプロモーション ・旅行者の受入れ	・旅行者の受入れ拡充	・旅行会社等を招聘し、商品化に向けた評価を実施した。
	戦略2-2 四季に応じた体験メニューの開発(山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等)		・商品化できるメニューの絞込み・商品化検討	・旅行会社等への売込みや着地型商品の造成	・旅行者の受入れ拡充	・塚田シェフと共に、新たな食材を探す体験ツアーを行った。
戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出	戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興		・鉄道ファンに向けた町の魅力発信方策の検討	・JR等との連携による独自ツアー等の検討	・旅行者の受入れ拡充	・民間主催「チャリ・デ・秘境駅」への支援を実施した。
	戦略3-2 サイクリング、ヤカヌー、フィッシング、徒歩等のクワイエットスポーツによる観光振興		・スノーカイト大会の継続開催支援や町内への普及 ・受入体制の充実	・競技フィールドの拡充 ・ホスピタリティの強化 ・外国人受入体制の充実	・バックカントリースキーとの連携 ・旅行者の受入れ拡充	・スノーカイト大会「フリカムイ・ホロノベ」を誘致し、モニターツアーを実施した。
戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発	戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用		・利用者の現状・意向の把握	・キャンプ場のPR・受け入れ	・キャンプ場活用に向けたさらなる整備検討	・キャンプ場の整備を実施した。
	戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施		・民泊制度の整理・受入れ可能農家等の整理	・試行的な受入れの実施	・本格的な受入れの実施	
戦略5. 地域特産品の開発	戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発		・過年度の取り組み状況等の整理 ・6次産業化や特産品開発の方向性検討	・6次産業化に向けた組織の検討 ・6次産業化や商品の開発検討	・来訪者等に向けた商品等の販売	・幌延町産を樽によるワイン試験製造を行った。
	戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発		・トナカイの生産強化、新たな商品の方向性及びメニューの検討	・開発したメニューの提供と改善	・本格商品化	・レストランでの幌延フェアにて、メニュー開発・提供を行った。
	戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開		・幌延らしい農業のあり方や組織の検討	・試行の実施	・生産体制の強化	
	戦略5-4 湧水の活用		・町内飲食店などによる活用の推進 ・ゼリーなどの飲料水以外の活用方法の検討	・来訪者等へのPRによる「湧水」のブランド化	・湧水をさらに活用するための環境整備	・レストランでの幌延フェアにて、活用した。
	戦略5-5 外部連携による食資源の活用		・幌延町や幌延産食材をPRを目的に外部機関と連携体制の構築	・連携による食資源の活用・PRの実施	・外部との連携拡大	・塚田シェフと連携し、札幌のレストランでフェアを開催した。
戦略6. 冬の賑わい創出	戦略6-1 アイスキャンダル等による官民連携・協働イベントの開催		・継続的なイベント開催に向けた体制・仕組みづくり	・継続的なイベント実施	・イベントを活用した誘客・交流人口の拡大	・第2回雪ん子まつりへの支援を実施した。
戦略7. 情報発信の強化	戦略7-1 動画等による情報発信の強化		・観光協会の体制強化等における情報発信主体・体制の強化	・幌延町を発信する公式的なSNS等の立ち上げ・情報発信の強化	・幌延町情報発信プラットフォームの設立	
	戦略7-2 観光大使による情報発信の強化		・大使を活用した町の広報方策の検討	・町の認知度向上を目的としたイベント等の検討	・移住や定住を目的としたイベント等の検討	
	戦略7-3 町内飲食店の情報発信の強化		・旅行者等に向けた分かりやすい情報発信の実施(マップ等)	・ウェブサイト等による外部への情報発信の充実	・旬な情報の発信や各店ごとの情報発信の充実	
	戦略7-4 ホスピタリティの充実		・幌延町らしいおもてなしのあり方を検討	・おもてなしに関する勉強会などの開催による普及	・来訪者へのおもてなしの充実	
戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備	戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点		・拠点設置個所の特定及び場所を踏まえた機能の絞り込み ・実施主体の検討	・実施計画の策定 ・拠点整備	・拠点の運営 ・拠点を中心とした交流人口の拡大	・検討委員会や庁内協議にて、拠点整備に向けた検討を行った。
	戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点					
	戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点の整備					

基本目標	検討課題等		実施済み		ロードマップ																成果目標
	H27				H28				H29				H30				H31				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
(1) まちにしごとをつくり安心して働けるようにする	<p>ア. 酪農の振興</p> <p>酪農実習生・新規就農者受入 新規就農者研修 新規就農者受入</p> <p>支援組織(ヘルパー等)一本化の検討 畜産クラスター事業 農業生産法人による新規農場の設立 搾乳開始</p> <p>新規就農研修プログラム策定・研修施設、体制整備 農産物産出促進補助金創設</p> <p>町営草地のあり方の再検討(酪農に限らない広範な新規就農者の受入れ) 農業従事者の作業免許等助成措置検討</p> <p>イ. 商工業の振興</p> <p>新店舗、空き店舗支援事業 商工業活性化及び事業継続支援事業</p> <p>作業免許取得等助成措置検討 → 梶延町商工業人材育成支援補助金創設</p> <p>ウ. 企業誘致及び起業支援</p> <p>新規起業支援事業 地元出身者等の起業促進補助の構築、町外向けPR検討 新規雇用助成事業実施 企業誘致優遇策拡充</p> <p>雇用奨励金創設 → 梶延町商工業雇用促進補助金創設 町における標準的な企業誘致条例制定、町外へPR</p> <p>エ. 再生可能エネルギー事業の推進</p> <p>変電所誘致要請・オトソレイ風力発電所運営事業協力・浜里地区風力発電事業推進</p>																				新規雇用: 10名、新規就農件数: 2件 生乳生産量: 3.8万t→4.0万t/年 農業生産法人設立: 1件 農業従事者数: 253人 支援事業の利用件数: 2件 起業件数: 2件 空き店舗活用支援事業数: 1件 起業件数: 2件 新規正規職員雇用増加数: 5名 企業誘致: 2件 新規再生可能エネルギー事業所数: 1件
(2) まちへ新しい人の流れをつくる	<p>ア. 移住・定住の促進</p> <p>移住促進住宅整備 移住促進住宅運営 拡大 持家住宅建設等支援 AP補助、店舗改修等補助 空き家・空き地バンク情報収集 運営・更新 農業実習生・農業体験・移住体験者受入事業</p> <p>民間賃貸住宅建設補助利用促進策検討 さらなる移住定住住宅等整備検討 → H30～ 間寒別移住促進住宅(3戸目)オープン ちょっと暮らし住宅整備検討 → H30～ ちょっと暮らし住宅(梶延2戸、間寒別1戸)オープン 家財道具処分費助成検討 H30～ 移住情報PR支援センター開設(地域おこし協力隊を活用した移住相談窓口) PFI方式による民間AP整備の検討</p> <p>イ. 観光資源の発掘</p> <p>観光等複合施設整備に向けた構想の具体化 地域(観光)振興計画策定: 観光等複合施設整備構想 観光振興計画アクションプランの策定 実施計画策定 施設整備</p> <p>トナカイ牧場場所・方向性検証、特産品開発</p> <p>防災付加的機能構想を設定すること 鉄道系資産の観光資源化、戦略の見直しを含めて検討すること 観光全般の再構築を目指すこと トナカイ、青いケシ、心象館、森林公園の在り方を議論し、方向性を見出すこと → 開基120周年に向け、町民への青いケシの苗配布を実施 計画で、関係者合意形成を図り、市街地区との導線確保策を盛り込むこと → 検討内容を踏まえ、観光等複合施設の具体的な方向性・イメージを決定すること → まち・ひと・しごと創生会・ワークショップで方向性の検討を実施 持ち帰り可能な土産(特産品)の商品開発の必要性</p> <p>地域おこし協力隊活用: イベント企画・実施 観光協会・町職員等</p> <p>協力隊の多面的機能を備えた活動拠点整備を検討すること → 移住情報PR支援センターの設置 活動認知のため、活動情報や観光情報発信に努めること → 活動報告会の実施</p>																				新規移住、定住住宅の提供戸数: 20戸 住宅の新築、改修補助件数: 5件 移住・定住者数: 30戸 空き家バンクの登録件数: 20件 体験者受入数: 10人 トナカイ観光牧場入場者数: 47,109人→50,000人 鉄道系観光客数年間: 500人
(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	<p>ア. 結婚・出産・子育てへの支援</p> <p>出逢いの場創設 アンケート調査 町内での婚活イベント開催</p> <p>若い世代自身の盛り上げが必要(リーダー的存在の必要性)</p> <p>新婚さん支援 新婚生活応援事業</p> <p>妊活支援 妊婦健診助成限度撤廃 妊婦健診助成の拡充 妊婦健康診査交通費助成 特定不妊治療費助成事業(体外受精・顕微授精・人工授精(一般不妊治療)) 出産祝い金制度</p> <p>育児支援の要素を含む形で出産祝い金制度設計 → 出産祝い金制度の開始</p> <p>子育て支援 間寒別へき地保育所充実 子育て支援センター開設 ファミリー・サポート・センター運営 養育手当支給 子育て世代包括支援センター設置 サポーター研修事業</p> <p>チャイルドシート購入助成・無償貸与 子ども医療費無償化: 中学生以下 子ども医療費無償化: 高校生まで拡充</p> <p>就学支援 奨学金貸付金の拡充</p>																				合計特殊出生率: 1.91 年間結婚件数: 5~6件→8件 年間出生者数: 25件→30件

基本目標	ロードマップ																				成果目標
	H27				H28				H29				H30				H31				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
(4) 時代に合った地域をつくり安心なくらしを守る																					
ア. 高齢者福祉と健康・生きがいの推進																					
社会福祉団体・ボランティア組織体制整備・機能強化																					
いきいきブルーポイント事業(健康づくり事業・ボランティアへの参加へのポイント付与)																					
ポイント対象事業の拡充																					
高齢者生活支援事業開始の検討																					利用件数: 200件
ボランティア組織実施機関検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)																					
社協: 市民後見人実施機関、日常生活自立支援事業実施、ホームヘルプ事業横だしサービス実施																					
社会福祉士採用に向けての協議																					
日常生活自立支援・後見人実施機関・横だし事業等検討																					
社会福祉協議会体制強化																					
事務局長人件費助成																					65歳以上の年間転出数: 12~16人→7件
事務局長及び社会福祉士1名分の人件費助成																					
市民後見人フォローアップ研修経費等必要経費の助成																					
横だしサービス事業に係る収支の差額等助成																					
地域おこし協力隊活用による日常生活支援																					協力隊導入者延人数: 15人
シルバー人材センターの調査研究																					
高齢者生活支援事業内容の検討																					
NPO法人の立上りに係る調査研究																					
高齢者福祉の現状調査分析																					
地域おこし協力隊活用(募集)の検討																					
シルバー人材センター事務局検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)																					
・シルバー人材センターの運営形態等の方向性を再検討																					
イ. 教育環境の整備と教育の充実																					
小中一貫教育の推進事業																					
子ども朝活「学習支援」・中学校「のびのび・はつらつ学習会(長期休業中の学習会、放課後学習会など)」																					全国学力・学習状況調査の正答率: 全国平均以上に(H26ほぼ全国平均)
・視小、視中の大規模改修については、今後の児童生徒数の減少を考慮しつつ、統合(兼替え)も視野に入れながら方向性を検討																					
・小中一貫校の方向性は町民意見も聴取しながら検討																					
ICT(情報通信技術)を活用した授業の推進																					
タブレット、拡大投影機等の導入																					PC等を活用した授業: 月1回→週1回以上
情報教育センター充実																					
・学校のレベルアップのための活用方法検討																					
・教員が変わっても活用できる仕組み検討																					
・ICTに特化した地域おこし協力隊員の導入検討																					
外国語教育推進事業																					
ALTの採用(民間へ業務委託)																					ALT配置: 1名→2名
・児童生徒や一般町民向けセミナーやイベントの開催を検討 → 児童向け英語活動、一般町民向け英会話教室の実施																					
・授業外の休み時間等の触れ合いも必要																					
ふるさと教育事業																					
ふるさと自然体験チャレンジ教室「酪農体験」、工場見学(牛舎、雪印等)、小中学校「社会科見学 など」																					産業体験者数: 100人
乳製品で料理教室(地場産品を使用した新メニュー考案など)																					
・基幹産業の酪農を理解する仕組みを検討																					
・大きな視点で産業を学ぶ必要がある(地元での産業体験について検討)																					
・一般向けに呼び掛けるなどの工夫を検討																					
子ども向け運動事業																					
調査研究																					
居場所や朝活との連携(稚内北星学園連携) 子ども朝活+年2回程度: 子ども教室実施(ダンス等)																					子ども体力調査: 全国平均値以上
社会体育事業との併用(水泳教室、スキー教室、エアロビクス教室等)																					
スポーツ推進委員と協議、計画																					年間7事業程度の教室を企画
・体育館やプールの大規模改修後の利用促進に関する方策を検討																					全国体力・運動能力・運動習慣等
・子育て世代の主婦層などが、(平日の午前など)参加しやすい時間帯での開催を検討																					調査結果: 全国平均以上に(H26平均以下)
・稚内北星学園大学との連携協定締結検討																					
ウ. ふるさと納税によるまちづくり																					
ふるさと納税地域活性化対策事業																					
クレジットカード決済導入																					ふるさと納税件数: 年間50件
返礼品追加・開発(雪印・青いケシ・トカイ・大使グッス・富士元氏写真集など)																					おみやげ品、特産品開発
・雪印製品の取扱いは不公平感が生じないよう広く各店舗へ提案すること																					
・町イベントで、全ての職員が能動的に参加する仕組みをつくること																					
・地場産品開発等チーム設置すること																					
・地場産品開発育成、支援制度創設、組織(多角)化、加工研修施設整備を検討すること																					
・青いケシのグレードアップ(商品)化すること																					
・町内向け食用トカイ肉生産体制を検討すること																					
・ふるさと納税返礼品に「雪印バター等製品」を加えること																					
・町内名水製品化をすすめること																					
(5) 地域と地域を連携する																					
ア. 地域連携による再生可能エネルギーの導入推進																					
道北地域再生可能エネルギー事業																					
風力送電網整備(道北送電網整備事業)事業: 関係機関(国・道)要請活動(稚内市・豊富町・中川町連携)・ルート選定調査等協力・庁内関係部署調整																					新規再生可能エネルギー事業所数: 1件
風力発電施設整備: 浜里地区風力発電事業推進への協力(町有地の提供・地質調査等)・オトノレイ風力発電所運営事業への協力(用地交渉・視察見学対応・リプレースの検討等)																					
バイオマス: 道北地域での導入推進～セミナーの開催による情報提供(幌延町バイオマス可能性調査業務の一環)																					
・バイオマスの利活用の工程表を作成すること																					
・モデルプラント整備を検討すること、ハウス園芸のようなものの実証実験ができない検討すること																					
イ. スポーツ大会と合宿等の地域連携による推進																					
スポーツ大会及び合宿誘致事業																					
補助制度の創設に向けた調査研究																					スポーツ大会・合宿数: 年間5件
受入体制整備・実施体制・関係部署調整、公共施設の使用の拡充・整理(目的外使用)集会施設・老人福祉センター等																					
・既存ストックの活用を検討 → 町内会館の宿泊試験利用を実施																					
・町にお金がかかる仕組み検討																					
・受け入れ体制の構想づくりをすること																					